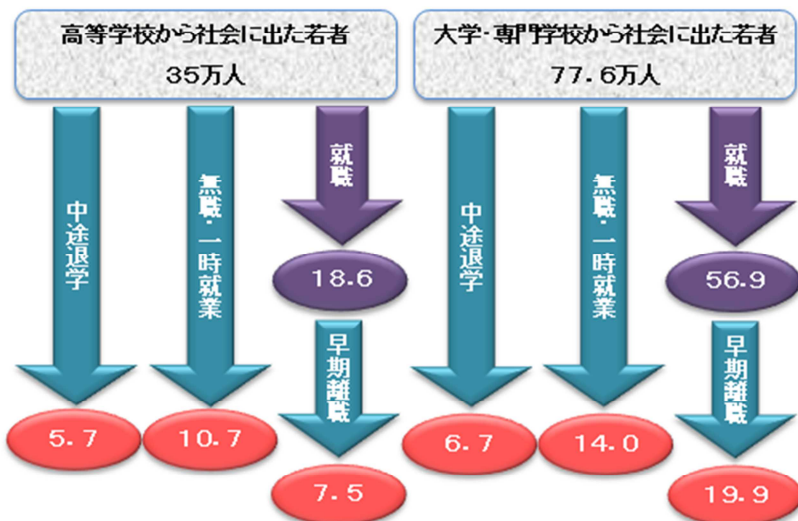


## 〔若者の就業の現状・若者の意識〕

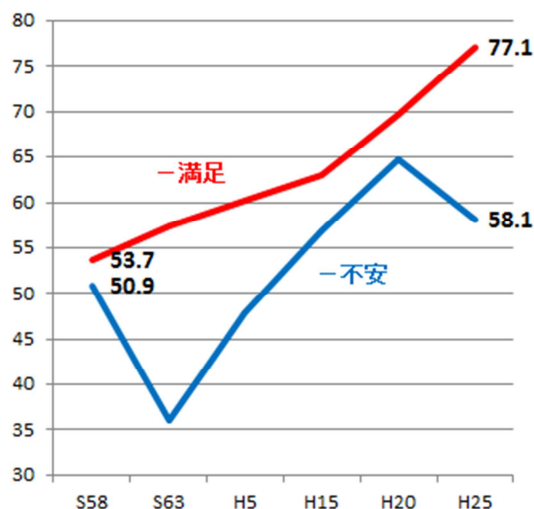
多くの若者が、安定した職に就き社会に生活の基盤を築くことができずにいる  
 足下の生活には満足しているものの、生活の不安も募らせている  
 仕事では、やりがいを重視しているものの、理想と異なる現実に不満

### 社会に居場所を築けぬ

(単位:万人、進学者等を除く)

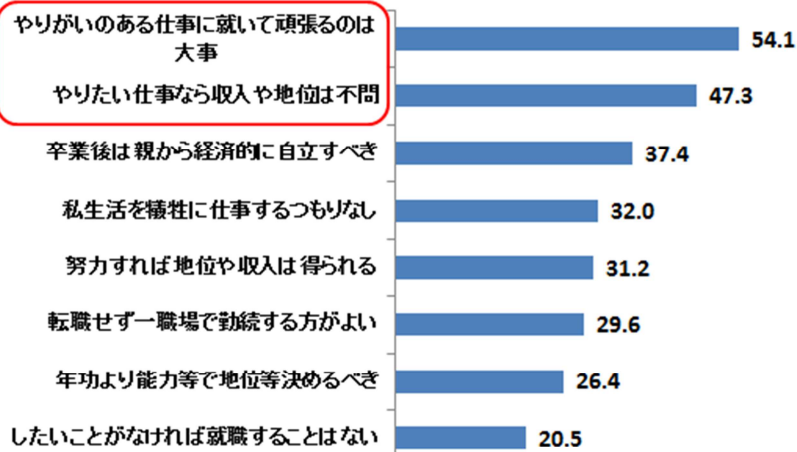


### 生活への満足・不安(20代男性)

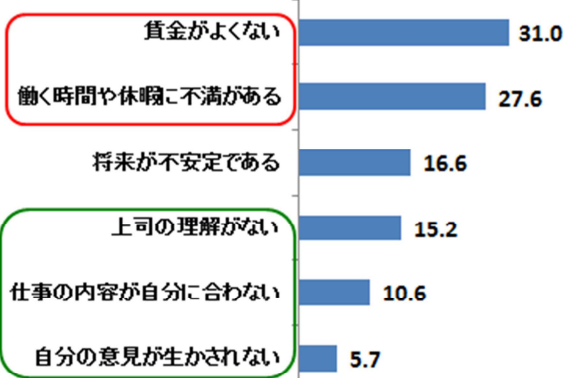


出所:内閣府「雇用戦略対話第7回資料」(平成22年3月卒業生の推計、早期離職とは就職後3年以内の退職)、  
 内閣府「国民生活に関する世論調査」より作成

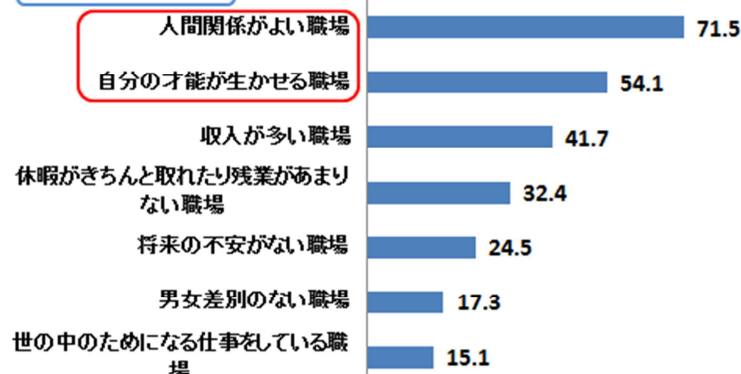
### 若者の職業観



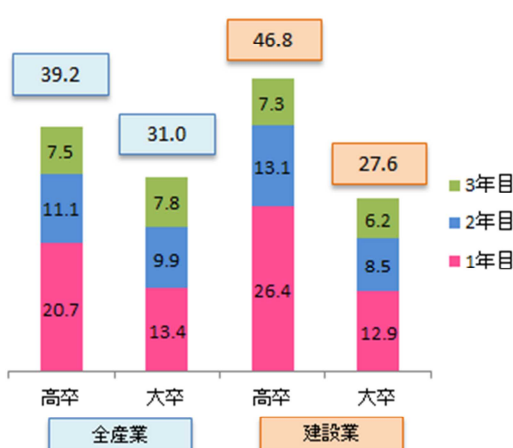
### 職場への不満



### 職場に求めるもの



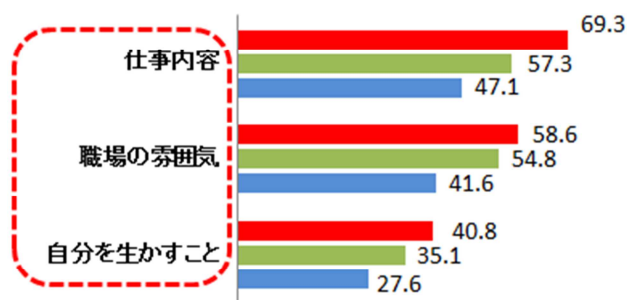
### 新規卒卒者(H22.3卒)の離職の状況(%)



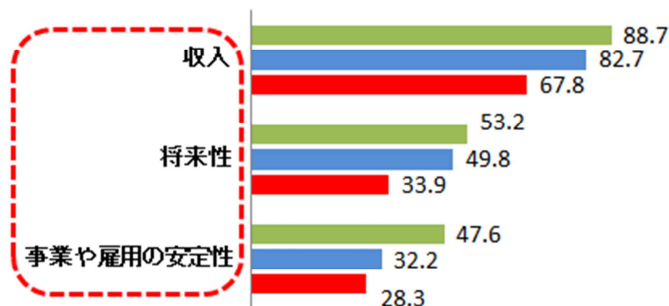
出所:内閣府「青少年の生活と意識に関する調査」、厚生労働省「新規卒卒者の離職状況に関する資料」より作成

## 若者の職業観 国際比較

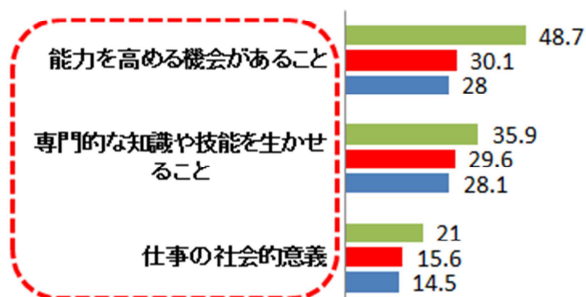
■日本 ■アメリカ ■韓国



■アメリカ ■韓国 ■日本



■アメリカ ■日本 ■韓国



日 = 内容(69.4) 収入(67.8) 雰囲気(58.6)  
 米 = 収入(88.7) 内容(57.3) 雰囲気(54.8)  
 韓 = 収入(82.7) 将来性(49.8) 内容(47.1)

出所:内閣府「第8回世界青年意識調査」より作成

## 工業高校教師達の声

### (求人)

- ☑ 建設業からの求人票がこない。求人が来るかどうか分からない企業を就職指導の対象には出来ない。
- ☑ 建設業からの求人数が少ないため建設業を希望している生徒が製造業に行かざるを得ない。
- ☑ 地元の建設業界が求人を出せば子供達も確実に地元で働きたい、建設業の求人がなければ製造業に行く。親も地元志向は同じ、建設業を嫌っているという声は聞かない。
- ☑ 現場監督の希望が生徒に多いけれどもそうした求人が少ない。女子の求人もだして欲しい。
- ☑ 条件が明らかに他の企業に比べて悪い。生徒も親もここは敏感。就業体系の明示、休養日の確保が必要。

### (企業との連携)

- ☑ どのような知識や技術を持った生徒を求めているのか教えて欲しい。
- ☑ 仕事が減ったからか建設業のインターンシップが少ない。そのため建設系学科の生徒がサービス業や製造業でインターンシップを受けている。

- ☑ 「高校生モノ作りコンテスト」に建設系学科としても参加したいが、実習に必要な機器や材料の価額が高くて手に入れられないため、参加をあきらめている。

### (卒業生のケア)

- ☑ 仕事を辞めたいという相談を卒業生から受ける。三年間は一生懸命働け、それでも会社が君を要らないというなら別の会社を責任もって紹介するが、自分の都合なら紹介は出来ないと言っている。
- ☑ 同じ会社の学校の先輩に連絡して声を掛けてやってくれと言うのだが、年の近い先輩が少なくなっている。
- ☑ 休暇も少なく遅くまで仕事をさせられるという不満をよく聞く。他の業界に行った子よりも余計に勉強させてもらっているということじゃないかと言っている。
- ☑ 社長から直接に声を掛けてもらえれば子供達の心に届くのにと思う。

建設業振興基金・意見交換より作成